

根岸森林公園 梅もよう

2022. 2. 16
島田祥生

暖かい日差しに誘われて、梅を愛でに訪れる人たち。
2月上旬から咲き始めたらしいが、まだつぼみが固い木も。
昨年末まで5年をかけて、梅林の梅の種類を調べ上げたそうです。
その数、何と134品種！！

この梅林は、いつ、どのような経緯で作ったのでしょうか。
案内図を見て、「ちっぽけな梅林」と思っていました、とんでもない。
この公園の広さがハンパではないのです。



公園の入り口を入り、階段を下りて広場を横切った
先にある梅園で目に付く「緋の司」は今が盛り



お弁当もって、母娘で梅見かな、日向ぼっこかな。
ず〜〜と、あそこのベンチに座り続けていました。



何という梅か？と、上に行ったり戻ってきたり。
あの方は、何度もカメラの中に。



やはり、写真を撮りたくなりますよね。梅園はここから
始まります。右のカップルは「花より団子」かな。

ネットで「横浜市梅の名所」を検索したら、この公園が出てきた。
アクセスは、根岸駅から坂道を15分登るか、横浜駅か桜木町駅から市バス。
ちょっと難儀。

でも、来てよかった。
来月初めまで、色々な梅が楽しめそう。
何と言っても、130種類を超える梅が見られるのだから。



緋の司



八重冬至



早凝馨



紛紅朱砂



旭鶴



右：案内所で手に入ったガイドブックには、134種類の梅の木の場所と花の写真が載っている。
左：ガイドブックと首っ引きで名前を調べている。
斜面を上ったり下りたり。
いや、動きから、番号順に確認しているのかもしれない。



根岸森林公園

横浜の中区、根岸台の丘の上に広がる約18ヘクタール（約6万坪）の広大なパーク。
 なだらかな自然の丘陵を生かした気持ちの良い芝生広場、それを囲むように包む深緑の森。遮るものない大空。
 日本初の洋式競馬場の跡地から生まれた公園としても名高く、横浜を代表する名所の一つです。
 と、このパンフレットに書いています。
 とにかく、広い！気持ちいい！園内だけで、1万歩も歩きました。



空が広い、芝生の広場 散策したりジョギングしたり。どこを歩いてもいい、立ち入り自由です。



散歩のワンコが気に入ったみたいで、バギーを置いて駆け寄った子。暫くして、振り返りながらしぶしぶバギーへ。



公園の入り口で並んで日向ぼっこ。真中のベンチでは、ショールにくるまれた介護の老犬も気持ちよさそう。



お散歩の後には、ごほうびのソフトクリーム。お兄ちゃんもいる。「ソフトアイス」の旗が読めたかな。

競馬場馬見所(観覧席)跡にて

ここは、慶応3年(1867年)に我が国最初の洋式競馬が行われたところで、戦後は接収され、米軍のモータープール、ゴルフ場となっていた。昭和44年、主としてゴルフ場だった場所が接収解除となり、横浜市が、昭和47年から公園整備に着手し、中央競馬会による競馬記念公苑とともに、昭和52年10月1日に開園したそうです。

この公園を見下ろす高台の地には米軍住宅(今は無住)があり、今も米軍の管理下にあります。

そういえば、根岸線が開通した後に、根岸駅近くから、大きな観覧席を見た記憶がありますので、公園整備で取り壊したのかもしれませんが。競馬場があったという曖昧な記憶の中で見たことなので、ひょっとすると幻かもしれません。



一等馬見所跡。
「近代化産業遺産」になっている。

米軍施設へのゲート
現在は閉鎖されている。



競馬場図面 黒いところが馬見所



昭和9年ころの競馬風景



一等馬見所(観覧席)の図面と写真

馬の博物館と根岸競馬記念公苑

以下、リーフレットからの抜粋：

1860年代、横浜で始まった洋式競馬は、1866年(慶応2年)完成した根岸競馬場に拠点を定め、翌年から1942年(昭和17年)に幕を下ろすまで76年間競馬が行われました。

もともと居留外国人の娯楽として始まった根岸競馬場は、やがて日本人も加わった社交場としてにぎわい、その後各地に設立された競馬場のモデルとなりました。

1969年(昭和44年)競馬場跡地の一部返還を受け、日本中央競馬会は、根岸競馬を記念し馬の知識を普及するための施設作することを決定し、1977年に博物館がオープンしました。



名馬シンザンの像 遠くに馬見所跡を望む

「シンザン」という名前を聞いた方も多いと思います。昭和35年生まれで、19戦15勝。まだテレビが普及していないときですから、ひょっとすると、「父はシンザン」で知っているのかもしれませんが。

36歳で亡くなるまで、北海道の浦河で種牡馬として過ごしたと聞いたことがあります。ものすごい名馬だったんですね。



横浜中心部案内



根岸森林公園

